



# 沢田ろうそくまつり

~神秘的な明かりを灯して~

今から約450年前まで遡ります。壇ノ浦で滅んだ平家の落人の子孫が、沢田の地で先祖の霊を供養したのが起源とされており、沢田神明宮の大祭の前夜祭として、旧暦の小正月（1月15日）晩に行われています。参拝者は、参道を上り、ご神体がある岩屋堂ほこらの岩壁にろうそくを立てて、その炎を奉納します。家内安全や合格祈願を祈ります。雪景色にろうそくの灯りが揺らめき、非日常的な雰囲気になります。

翌日の大祭では、前日に灯したろうそくの蠟の溶け具合を見て、今年の豊凶を占つ行事です。

## 沢田ろうそくまつりの起源



## 豊凶占いの行方は…

氏子総代の大澤勝美さんは、大祭の当日朝に豊凶占いを行います。ろうそくの蠟の垂れ具合が稲穂のような形を多く示す場合は豊作とされ、少ない場合は凶作と占つと説明してくれました。今年の結果と云えば、りんどごに関しては平年並みだが、雪害の影響もあり収穫量は減ると見込まれる。作物に関しては昨年より良い。台風は来ないが一時的な大雨と突風には注意を要する。と出ていました。



3月3日、「沢田ろうそく祭り」が開催されました。普段は2月に行われていましたが、今年は8年ぶりに3月に入ってから開催で、天気も良く皆既月食でもキレイでした。そのおかげか昨年よりはるかに多くの方々が訪れ、沢田から湯口へ戻る無料送迎バスは座るところが無くなるくらいにぎゅうぎゅう詰めでした。

今年のメインテーマは「愛着」であり、昨年地域おこし協力隊が発行した『集落の教科書』で全住民アンケートにおいて約9割の人が相馬地区に愛着を感じると答えている。このことに感銘を受けた三上昇さんが命名しました。相馬地区への愛着、沢田ろうそくまつりへの愛着、生



まれ育った場所への愛着と色々な意味を持つています。ろうそくが灯された参道は、「ふるさとの山々」をイメージしています。当日は、相馬ハンタークラブの方々のマタギ鍋とニジマスの中から揚げ、岩木山商工会の暖かいそばやうどんや沢田地区で収穫して塩漬けされた山菜などが販売され、どの店も大盛況でした。こうした伝統ある祭りを毎年開催できるのは、学生ボランティアやJA相馬村青年部や小学生など多くの方の力が集まって行われている。来年もさらに足を運んでもらえるように地域の団結力で、より一層盛り上がっていききたいと思えます。

